

令和3年8月21日

それでは、三重とこわか国体・三重とこわか大会の中止する方向での関係者との協議に入るについて述べさせていただきたいと思います。

この度、断腸の思い、苦渋の決断で両大会を中止する方向で主催者の方々と協議に入ることとしました。

まずはこの国体に向けて人生をかけて、懸命に懸命に、努力を重ねてきてくれたアスリートの皆さん、またそれを懸命に支えてくださった保護者、指導者の皆さん。そのアスリートの活躍をととてもとても楽しみにしてくれていた皆さん。その皆さんに対し、アスリートの活躍を失わさせてしまう、そういうような形になってしまったことに、心から、心からまずはお詫びを申し上げたいと思います。本当に申しわけありません。

本当にこの10年間、皆さんのアスリートの皆さんの成長や努力を見てきましたので、本当に断腸の思い、苦渋の決断です。

しかしながら、この1週間、私たちが経験したことのない驚異的、爆発的な感染拡大がこの三重県、そして全国を襲っている。そういう状況です。とにもかくにも県民の皆さんの命が第一、それに代わるものはない。命より重いものはない。県民の皆さんの命を絶対守らなければならない。そういう強い思いから今回の決断に至りました。

県民の皆さんの命を守り抜く、それを最優先に出させていただいた結論です。

競技をしていただく皆さん、競技団体の皆さんなどにも今回の結論に至るまでいろんなご意見を賜りました。8月14日時点では全競技の皆さんが無観客でもいいからやってみようじゃないか、そういうふうにおっしゃっておられましたけれども、この1週間、驚異的、爆発的な感染拡大により、不安を抱える競技団体や競技をされる方も増えてきました。

その皆さんが本当に心から応援される環境で活躍できるようにしてあげたい。今のままだったら、不安の中で頑張らなければならない。そういう事態にもなってきたかねません。

また、国体には高校生などの多くの競技補助員が輩出されます。現在子どもたちの感染も広がっています。子どもたちの命、健康も守らなければならない、そういう思いにもなっています。また、そういう思いを大切にしなければならない、あらためて思っています。

そして、先ほども少し言いましたけれども、千葉県で妊婦の方、そしてこれから生まれてきて頑張ったであろう、楽しい未来が待っていたであろう命が奪われてしまった。今、三重県の状況でそういうことはないにしても、さらに感染が拡大すれば、そういうことも出てきかねない、それぐらいの感染拡大の状況で、県民の皆さんの命を守らなければならない。守り抜かねばならない。ああいうことが絶対に三重県であってはならない、そういう思いでもあります。

最後になりますけども、登山家の三浦雄一郎さんが、86歳で南米大陸最高峰のアコン

カグアにチャレンジをし、その山は6,900メートルあるんですけども、6,000メートルの所で撤退をした。ドクターストップがかかって撤退をした。悔しい思いをしたけども、三浦さんは90歳でエベレスト、そこで命を絶たれなかったから、次のチャンスに向かって、夢に向かって頑張っておられます。

今回、繰り返しますけども、断腸の思い、苦渋の決断でありますけれども、今回の中止する方向での協議の結果、中止とあいなった後でも、今回のことが次の三重県の未来のチャンスに繋がっていく、そういうふうに切に願い、また、そうしていけるように自分も努力をする。そういう思いで、今回、中止の申し出をしていくということになりました。

すでに事務的には議論が入っておりますけれども、文部科学省、日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会と週明け早々に協議の場を設けられるよう調整を行っていきたいと考えています。以上です。